

学生の皆様

学生生活実態調査ワーキング

第8回度学生生活実態調査結果に基づく改善等について

標記の件について、平成27年10月に実施されました第8回学生生活実態調査ではアンケートにご協力いただきありがとうございました。

アンケート結果に基づき、改善が必要な事項について大学全体で検討しました。検討の結果、下記のとおり改善等を実施することとしましたので報告します。

記

1. ポリシーに関して

大学憲章、入学者受入方針（アドミッションポリシー）、教育課程の編成・実施方針（カリキュラム・ポリシー）、学位授与方針（ディプロマポリシー）の周知状況について、周知度が全体的に低い傾向があった。

教育・学生生活委員会、教育改革推進ワーキング、全学入学者選抜制度検討委員会で、3つのポリシーを見直し中であり、2016年度中に大学のホームページなどを通して、周知することとしている。在学生向けには大学導入科目等で、受験生には大学説明会などを通じて本学のポリシーを周知する。

2. 他大学との交流に関して

他大学との交流を増やして欲しい旨の要望があった。

西東京三大学連携事業（本学、東京外国語大学、電気通信大学）の実施などによって、今後はより他大学学生との交流の機会が増加する見込みである。

3. カリキュラムに関して

授業の到達目標が不明確等の理由によってカリキュラムの満足度が低下している。

シラバスにおいて到達目標を明示するよう教員に周知徹底した。また、2019年度から新カリキュラムを実施予定であり、それに向けて、共通教育のあり方、実験科目の早期開始、アクティブラーニングの活用、大学院課程で英語のみで修了できるコースの設定などの検討を開始している。

4. 授業外学習時間に関して

自習、雑談、飲食、休憩等が出来るスペースを拡充して欲しい旨の要望があった。

府中キャンパスについては図書館の改修に伴いラーニング commons 的な利用に向けた改善を図っており、ディスカッション、自習をするスペースは十分に確保されている。

小金井キャンパスについては、図書館3階にラーニング commons 用スペースがあり、8号館の教室を自習室として開放しているので利用いただきたい。

5. 図書館に関して

蔵書・ジャーナルおよび電子ジャーナルの充実の要望があった。

電子ジャーナルは、毎年価格が上昇しており、現状のタイトルを維持するだけでも厳しい状況で、新たに追加で購入することは困難である。さらに、電子資料費の価格上昇の影響により、一般図書購入のための予算も圧迫されており、蔵書の充実のために充てる予算が限られている状態である。

図書は、購入希望を図書館に申請することができる。申請に基づき各地区図書館で検討をおこない、妥当と判断された図書は購入し、申請者へ優先的に貸し出しをおこなっている。

電子ジャーナルを含む雑誌の定期購読は、学生が直接申し込むことはできないが、教員に対しては、教員自身の大学運営費負担での定期購読申込調査が毎年実施されるので、希望するタイトルがあれば、指導教員に相談することが望ましい。

また、他大学や国立国会図書館への文献複写や相互貸借は、学生も申込みができる。申込みには、図書館ホームページ「My OPAC」サービスからの web 経由、または申込書を図書館へ提出する方法がある。支払いは私費に加え、教員が大学運営費の使用を認めている場合は、大学運営費による支払いもできる。ただし、学生が web から大学運営費で申し込む場合は、事前に大学運営費使用申込書の提出が必要である。

大学が購入している図書には限りがあるが、図書館における種々のサービスを学生が有効活用できるように、パンフレットや web 上の案内の情報を充実していくことも検討している。

6. 実験室に関して

実験室の環境・設備の改善の要望があった。

学生実験室については十分整備されていると認識している。各研究室の実験室については、共通機器を使いやすいように整備している。

7. 無線 LAN に関して

無線 LAN をより充実させて欲しい旨の要望があった。

平成 27 年度末に実施したシステム更新の際に、各学部から依頼のあった優先設置場所に無線 LAN アクセスポイントを増設済みである。また、平成 28 年度にも一部増設予定である。

8. 国際交流に関して

留学以外の国際交流機会を増やして欲しい旨の要望があった。

AIMS、LaSEP プログラム、STEP、SS/SV や、リーディング大学院、EDGE プログラム、博士課程学生の海外派遣プログラムなどで、派遣および招聘を実施しており、国際交流機会は十分増加していると認識している。さらに、国際センターのグローバルカフェの利用や AIMS バディ制度等の活用にも期待する。これらの情報は、各年度のオリエンテーションで周知する他、府中地区はグローバルインフォメーションオフィスに集約してあるので、利用いただきたい。

9. サークルに関して

サークル活動への理解・支援をして欲しい旨の要請があった。

各地区の学生担当係を中心に可能な限りの支援を行っているとは認識している。サークル活動への理解には、相互の信頼が必要であり、例えば、サークル側でも緊急対応マニュアル整備等のルール遵守が求められる。なお、サークル活動はあくまで課外活動であるため、開講日のサークル活動参加者への特別措置等は、大学本来の教育目的とは合致せず、理解・支援は困難である。

10. 学生生活の悩みに関して

研究室の学生生活や学修について相談できる場所や利用方法が分かりづらいとの意見があった。

学生相談室、保健管理センター及び特別修学支援室の場所や利用方法、カウンセリングなどの日時についてはホームページや学内掲示で明示してあるので参照いただきたい。プライバシーは十分保護されるので、積極的に利用していただきたい。また、各学科に班担任、助言教員、学生相談員等の名称で、各学生の相談相手としての教員が指名されているので、悩み等がある場合は、こうした担当教員への相談が可能である。

11. 書類の英文版について

留学生から入学手続や出張手続などの書類が日本語のものしかないため、留学生でも書類を記載出来るような仕組みを構築して欲しいとの要望があった。

入学手続、学外研究届など、留学生が直接作成・記入する書類の英文化は概ね平成 27 年度に終了している。出張手続などの書類は、指導教員が作成するものであり、英語化の予定は無い。

12. ハラスメントに関して

ハラスメント相談室の認知度が低い。また、ハラスメント対応策の構築が必要であるとの意見があった。

入学時に行うオリエンテーションにてハラスメント相談室をより周知することとした。

さらにハラスメントの防止策として、学生および教職員への教育啓発活動をハラスメント防止・対策委員会、教育・学生生活委員会及びハラスメント相談室が中心となって実施していくこととした。

13. 小金井キャンパスの学園祭に関して

工学部の学園祭が実施されないことについて賛否両論がある。小金井キャンパスの学園祭は実行委員会の判断で実施しないこととしたが、学園祭を実施することとなった場合は、大学として支援する方針である。

14.自由記述から分かった問題点に関して

1) 教員が学生への指導と研究にさらに集中出来る状況にして欲しいとの意見があった。

全般的には、現状維持をしながら、学生への指導と研究に携われる時間を増やす方策を検討している。

2) 単位の取得が不要でも講義を聴講できるシステムの要望があった。

授業担当教員の裁量で講義の聴講可能な場合があるので、担当教員に確認いただきたい。

3) 研究室の蔵書の貸し出しを行って欲しい旨の要望があった。

研究室の蔵書の多くは図書館OPACに登録されており貸し出し可能である。その他については、研究室の蔵書管理者に確認していただきたい。

4) 必修が多すぎるのではないかとの要望があった。

平成31年度に向けて新カリキュラムの編成を開始しているところであり、学科・専攻等の教育委員に意見を伝えていただきたい。

5) 単位を落とした場合、再履修が難しいので何か方策を検討して欲しいとの要望があった。

学生には、計画的な履修をしていただきたい。なお、不明な点があれば、必要に応じて班担任、教育委員に相談していただきたい。

6) 不満をなかなか伝えることが出来ないので伝えられる方法を検討して欲しいとの要望があった。

意見箱、学生相談室、学長等と学生との懇談会、各種の学生向けアンケートなど既に種々の意見窓口があるので活用いただきたい。

ワーキンググループ委員（五十音順）

有江 力（委員長）、岩田 陽子、岩渕 喜久男、梶田 真也、川端 良子
近藤 敏之、高柳 正夫、土屋 俊幸、原田 賢治、藤井 恒人、RAKSINCHAROENSAK
PONGSATHORN、馬渕 麻由子、養王田 正文、吉永 契一郎

事務局：学務部教育企画課